

平成 26 年度 動物実験等に関する報告

国際水産資源研究所

項 目	報 告 内 容
1 動物実験等の実施状況	
(1) 実施件数	当該年度の実験件数の合計 3 件
(2) 使用動物種	①キタオットセイ、②ハンドウイルカ、③オオミズナギドリ・ウミネコ
(3) 関係研究課題数	当該年度の全実験課題数 3 課題
(4) 実験課題	① 高次捕食者を用いた生態系モニタリング手法開発のためのキタオットセイの飼育履歴情報と体組織標本の収集分析 ② 小型鯨類の簡易標識タグの開発と評価 ③ 海鳥の血液成分から栄養状態の指標を得る手法の開発
2 点検・評価結果	
(1) 所内規定の制定	国際水産資源研究所動物実験委員会規則 平成 24 年 5 月 22 日付け 24 水研国第 66 号
(2) 動物実験委員会の設置状況・構成	委員長 (業務推進部長) 事務局 (業務推進課長) くろまぐろ資源部委員(1 名) かつお・まぐろ資源部委員(1 名) 外洋資源部委員(1 名) ○開催実績 第 1 回 : 平成 27 年 5 月 18 日 (主な内容) 平成 26 年度動物実験記録書について 平成 27 年度動物実験計画書について

<p>(3) 動物実験等の実施状況</p>	<p>①伊豆・三津シーパラダイスで委託飼育しているキタオットセイ成獣3頭を実験個体とした。餌料は通常飼育餌料として使用しているサバ類を使用した。給餌量は個体別に毎回記録した。毎月1回、成長と栄養状態の記録のため、体重計測と採血を行なった。採取した血液は、安定同位体分析用の血球・血漿に分離して冷凍保存するとともに、健康状態を観察するため一般血液性状検査に供した。</p> <p>②水産総合研究センター国際水産研究所と太地町立くじらの博物館の共同研究契約に基づき、小型鯨類へ装着する簡易標識タグの開発と評価を目的に、太地町立くじらの博物館で飼育されているハンドウイルカ3個体（雄2個体、雌1個体）の背鰭に標識タグを装着し、装着の状況、個体の行動、健康状態等のモニタリングを行った。</p> <p>③血液の成分から、海鳥の栄養状態を知るために、実験的に給餌を制限するグループとコントロールグループを作り、血液成分の変化を調べることを目的としオオミズナギドリ・ウミネコの飼育を行った。実験に用いたオオミズナギドリ7個体中5個体、ウミネコ2個体中1個体が実験期間中に死亡した。全ての死亡個体に対して、剖検を行い、死亡原因の究明および再発の防止に努めた。</p>
<p>(4) 教育訓練等の実施</p>	<p>平成26年10月10日に開催された平成26年度動物実験勉強会動物実験に係る研修会に担当研究者1名及び業務推進部長が出席</p>
<p>(5) 実験動物の飼養等</p>	<p>①実験個体の健康状態や、体重計測・採血等の手技に問題はなかった。飼育は順調に進んでおり実験継続が望まれるが、伊豆三津シーパラダイスでキタオットセイの飼育を縮小する計画があり、次年度以降の飼育見込みは立たない状況にある。</p> <p>②実験個体の行動や健康状態に問題はなかった。その後も従来通りの飼育を継続している。まだタグが外れていないものは、装着状況等の目視によるモニタリングを継続していく予定である。</p> <p>③死亡した個体については、伊豆・三津シーパラダイスの獣医師によって剖検が行われ、死亡要因の究明に努めた。実験終了後生存個体は放鳥した。</p>
<p>(6) 総合評価</p>	<p>適切に実施されたものと認める。</p>